

— 平成26年度 —

事業報告書

平成27年6月

一般社団法人 日本私立歯科大学協会

平成26年度事業報告及び収支決算報告

第80回 定 時 総 会
平成27年6月22日(月)
於 K K R ホテル東京

目 次

I 事業報告

1. 個別事項

(1) 歯科医師需給問題について	3
(2) 歯科医師国家試験について	10
(3) 歯科医師臨床研修について	13
(4) 附属病院の感染対策について	14
(5) 歯学教育の認証評価について	23
(6) 協会の「広報戦略」について	23
(7) 私立歯科大学(学部)の財政等の現状について(平成25年版)	28
(8) 広報の発行(第68号・第69号)について	28
(9) 受験生確保対策事業について	31
(10) 研修事業について	32
(11) 総会、部会の開催日について	32
(12) 私学関係諸団体との提携・協力及び援助について	32

2. 会 議

(1) 総 会

・第78回定時総会(H26.6.23)	33
・第79回臨時総会(H27.3.16)	38

(2) 理事会

・第1回(H26.5.26)	42
・第2回(H26.6.23)	43
・第3回(H26.11.4)	47
・第4回(H27.1.13)	50
・第5回(H27.2.16)	51
・第6回(H27.3.16)	54

(3) 部会・委員会

①教育・研究部会

・第1回(H26.6.18)	56
・第2回(H26.10.21)	56
・第3回(H27.3.16)	56

②病院部会	
・第1回（H26.6.16）	57
・第2回（H27.3.16）	57
③経営部会	
・第1回（H26.6.19）	57
・第2回（H27.3.16）	58
④広報委員会	
・第1回（H26.7.31）	58
・第2回（H27.2.4）	58
⑤受験生確保対策委員会	
・第1回（H26.7.25）	58
⑥研修委員会	
・第1回（H27.2.20）	59
⑦附属病院感染対策協議会	
・第6回（H26.6.3）	59
・第7回（H26.12.8）	59
（4）事務局長会議	
・第1回（H26.5.22）	60
・第2回（H26.9.11）	60
・第3回（H27.2.13）	61
3．研修会	
（1）第36回附属病院管理運営事務研修会（H26.10.23～24）	62
（2）第10回教務研修会（H26.12.1～2）	65
II 収支決算－平成26年度日本私立歯科大学協会収支決算報告書	70
III 平成27年度日本私立歯科大学協会事業計画	81
IV 平成27年度日本私立歯科大学協会収支予算	85
V 日本私立歯科大学協会役員名簿	87
VI 正会員の入会・退会及び会員名簿	88
VII 資料	
1．私立歯科大学・歯学部募集人員の推移	90
2．平成26年度入試結果	91
3．平成27年度私立歯科大学・歯学部入学者選抜実施計画表	92
4．私立歯科大学・歯学部学費一覧	93
5．平成27年度入学志願者・受験者状況(中間)	94

I 事業報告

1. 個別事項

(1) 歯科医師需給問題について

1. 第2回理事会(H26. 6. 23)において、川添会長から、5月26日の理事会終了後、小林専務理事と事務局長の三人で文部科学省医学教育課を訪ね、袖山課長に、志願者、受験者が昨年よりも増したことを報告してきた。

袖山課長からは、以下の4つのコメントがあったとの報告があった。

- 歯科医師国家試験の合格率が10ポイント以上落ち込んでいるが、質の低下はよろしくない。
- 教育の質を担保する観点から協会や各大学で入学定員のコントロールをして欲しい。
- 入り口(入試)だけでなく、カリキュラム、国家試験等全体で質の確保を図っていくことが大事。
- 各大学が個別に改善していくことが必要である。そのために、文部科学省では、大学の情報を社会に積極的に提供していく。

需給問題については直接触れられなかったが、繰り返し言われたのは教育の質の確保について重視したいということであった。

2. 第3回理事会(H26. 11. 4)において、川添会長から、8月1日付で医学教育課長に寺門氏が就任したので、8月18日(月)に川添会長、小林専務理事、事務局長の3人で挨拶に伺ったが、その際、寺門医学教育課長から以下のコメントがあったとの報告があった。

- 定員問題について、政策は変わっていない、従来からの28%減という目標値は変わらない。
- 分野別認証評価については、現在では不可欠になっており、大変なことは分かるがそれを行うことが歯科大学・歯学部の説明責任を果たすことになるのでご協力願いたい。

また、島居補佐から、文部科学省は歯科大学・学部の3年分の諸データを公表しているが、どのように改善しているかは各大学が説明して欲しい、また、改善が見えるように取り組んで欲しい、との要望があった。

3. 第3回理事会(H26. 11. 4)において、川添会長から、文部科学省「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」の第16回会議(7月31日)及び第17回会議(10月29日)における審議状況について、以下のような説明があった。(別記1)

第 16 回会議の議題は、

- (1) フォローアップの実施
- (2) 分野別認証評価について
- (3) 今後の歯学教育の在り方について

の三つで、フォローアップについては、フォローアップ小委員会の設置が承認され、分野別認証評価については、去る 6 月の総会時に講演して頂いた東京医科歯科大学教授の荒木委員が歯学教育認証評価取組状況を説明し、また、厚生労働省の和田歯科医療専門官が、「歯科医療を取り巻く状況」について説明した。

第 17 回会議の議題は、

- (1) 医学教育の改善・充実に向けた取組について
- (2) 諸外国の歯学教育の現状について

の二つで、医学教育の改善・充実に向けた取組については、千葉大学の中谷理事(全国医学部長病院長会議共用試験検討委員会委員長)が、「共用試験による Student Doctor 認定システム」をテーマに話され、また、新潟大学の前田先生が「諸外国の歯学教育の現状」をテーマに話された。また、質疑では、CBT 合格推奨ライン(IRT43)に対し OSCE の合格ラインについてどのようなになっているかとの質問や、歯学についても共用試験の合格ラインを全歯学部統一すべきと等の意見があった。次回の会議は、来年 2 月頃の予定である。

4. 第 4 回理事会(H27. 1. 13)において、川添会長から、最近の報道等における日本歯科医師会の歯科医師需給問題に関する考え方等が紹介され、また、日本口腔インプラント学会における下村文部科学大臣の入学定員見直し発言報道後、文科省や厚労省でそれに対する具体策を考え始めた等の話があるとの説明があった。従来の申し合わせでは 20%減は守りましょう、もしそれを出たら翌年か翌々年に少し減らして調整し、平均的に 20%減はほぼ達成できている。ここまでは何とか協会で申し合わせできるけれど、これ以上削減すると経営にも影響してくる。併せて、厚労省が、歯科医師需給問題、輝く女性の働く職場の環境作り、専門医の三つの分科会を立ち上げるとの報告があった。

5. 第 5 回理事会(H27. 2. 16)において、川添会長から、文部科学省医学教育課へ新年の挨拶に小林専務理事、事務局長とともに訪問した際、寺門医学教育課長から、以下のような話があったことが報告された。

- 厚生労働省の「歯科医師の資質向上等に関する検討会」が始まるが、日本歯科医師会の 10 月のレポート(「歯科医師需給問題の経緯と今後への見解」)も出ているので、多面的な議論をお願いしたい。そのためには、日本私立歯科大学協会(以下、「協会」という。)として組織的に対応することが必要になるだろう。協会としては、より前向きに対応していくのがいいのではないか。会議が始まれば、28%減の話は出る。大学は歯科医師という高度専門職

人材を養成しているので、安易に決めることはできないが、いろいろ議論される中で、ワンサイドにならないように協会として準備しておいたほうがいい。

6. 第5回理事会(H27.2.16)において、川添会長から、厚生労働省「歯科医師の資質向上等に関する検討会」(以下、「検討会」という。)の第1回会議が、平成27年1月16日(金)に開催されたこと、私立歯科大学関係者としては、議長と福岡歯科大学常務理事の水田先生の二人が構成員として入っていること、検討会において議論する事項及び論点が示され、需給問題については以下の4つの論点があげられていることについて、報告があった。(別記2)

- ① 歯科医療を取り巻く状況を踏まえて、国民や患者が求める歯科医師像はどのようなものか。
- ② 歯科医師の養成課程において、コミュニケーション能力や一定の学力等の基本的資質を有さない学生や歯科医師国家試験を繰り返し受験し、歯科医師臨床研修やその後の歯科診療に支障を来す者については、どのような対応が考えられるか。
- ③ 歯科医師または歯科大学在学時の知識や技術を活用し、他職種での活用等の対応が考えられるか。
- ④ その他、他職種や他分野での需給に関する取り組み等を参考として、どのような対応が考えられるか。

また、今後、検討会にワーキンググループが立ち上がって検討が進められるが、その状況については、逐次報告していきたいとの説明があった。

議長から、こうした動きに協会として適切に対応するため、会長の下にワーキンググループを立ち上げることが提案され、これについて以下のような意見が交わされた。

- 歯科医師の需給という話になっているが、本来は歯科医療の需給をやらないと、そこに従事している歯科医師の数なので、国は歯科医療をどう考えているのか方向性を示していかないといけない。
- おそらく今の医療費を歯科の方に回せば回すほど全体の医療費は下がると考えてもおかしくない状態だと思うので、国の方が歯科医療をどう考えるかが一番大きな問題だと思う。
- 国立も私立も社会のニーズにあった歯科医師を一所懸命育てている。カリキュラムは20年前、30年前とは明らかに違う。30年前に育った人達と今出て行く人達を同じ歯科医師と捉えていることに間違いがあると強調すべきだと思う。新しい教育を受けて来た歯科医師を抑制することは社会のニーズに逆行している。歯科医師全体の需給、資質を検討すべきであり、歯科医師定年制や免許更新制についても一緒に議論すべきである。

- 教育学会で共用試験の導入前と導入後でどれだけ学生の質が変わったのかということを経済的に検討することを考えているが、そういうものを今後データとして出すべきだと思う。コミュニケーション能力が低いというが、臨床研修の協力型施設にアンケートとったことがあるが、自分の卒直後と今の卒直後と何が違いますかと問うと、明らかにコミュニケーション能力が高いという。
- 需給問題だけだったら、入り口を狭くしろという議論でいいだろうが、資質向上だとか、国民の負託というか信頼に耐えうるリクワイアメントはどこにあるかという話になると、新規参入者だけに課す話ではない。
- 一般内科の診療所と比較した歯科医師数、歯科医療の需給、その二つを論点としていけばいいのではないか。
- 国から歯科医療がどうあるべきかということがなかなか出てこないのであれば、ほとんどの教育を担っている私立歯科大学として、今後の歯科医療はこうあるべきだということを提案することも考えられる。

等々の意見が出され、「歯科医師・歯科医療の需給に関する調査研究ワーキンググループ」を早急に立ち上げることが了承された。

7. 第6回理事会(H27.3.16)において、川添会長から、前回理事会で認められたワーキンググループが3月2日(月)に開催され、今後の進め方について話し合われたことが報告された。また、議長から、厚労省の歯科医師の需給問題に関するワーキンググループ(以下、「厚労WG」という。)のスケジュール等について説明があり、オブザーバーの羽村先生(厚労WGの構成員)から、補足説明がなされた。(別記3)

これについて、以下のような意見があった。

- 私立歯科大学協会(以下、「協会」という。)の考えを出さなければ日本歯科医師会の考え方がそのまま通っていくと思うので、次の厚労WGまでに協会の考えを出したほうがいいと思う。
- 女性歯科医師の問題についてのワーキンググループもあるので、この問題についても協会としての意見をまとめていただきたい。

歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議（第16回）

会 議 次 第

1. 日 時：平成26年7月31日（木）14:00～16:00

2. 場 所：文部科学省7階 7F1会議室

3. 議 題

- (1) フォローアップの実施
- (2) 分野別認証評価について
- (3) 今後の歯学教育の在り方について

4. 配付資料

- 資料1 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議について
- 資料2 歯学教育の改善・充実に関するこれまでの取組
- 資料3 平成26年度各大学歯学部入学状況および国家試験結果
- 資料4 平成26年度以降のフォローアップ調査の方向性
- 資料5 フォローアップ小委員会の設置について（案）
- 資料6 平成26年度フォローアップ調査実施要領（案）
- 資料7 歯学教育認証評価取組状況について（荒木委員発表資料）
- 資料8 歯科医療を取り巻く状況（厚生労働省医政局歯科保健課発表資料）
- 資料9 今後のスケジュール（案）

- 参考資料1 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告
- 参考資料2 平成21年度1歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告を踏まえたフォローアップ状況（まとめ）
- 参考資料3 平成24年度フォローアップ調査まとめ
- 参考資料4 歯学教育の質向上のための施策の方向性
- 参考資料5 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議【提言・要望】
- 参考資料6 歯科専門職の資質向上検討会 報告書

● 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議について（平成26年07月01日～）

平成26年05月14日
高等教育局長決定

1. 目的

大学の歯学教育の改善・充実に関する専門的事項について調査研究を行い、必要に応じて報告を取りまとめる。

2. 調査研究事項

- (1) 学部及び大学院における歯学教育の改善・充実にについて
- (2) 資質の高い歯科医師養成の在り方について
- (3) 教育研究病院としての大学附属病院の在り方について
- (4) 教育研究の在り方について
- (5) その他

3. 会議の構成等

- (1) 会議の構成は別紙のとおりとする。
- (2) 必要に応じて、小委員会を設置して検討を行うことができるものとする。
- (3) 必要に応じて、関係者からの意見等を聴くことができるものとする。

4. 設置期間

平成26年7月1日から平成28年3月31日までとする。

5. その他

本会議に関する庶務は、高等教育局医学教育課において処理する。

● 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議 委員名簿

	秋山 正子	株式会社ケアーズ代表取締役 白十字訪問看護ステーション統括所長
	荒木 孝二	東京医科歯科大学歯学教育システム研究センター教授
	一戸 達也	東京歯科大学副学長
	江藤 一洋	公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長 東京医科歯科大学名誉教授
	川添 堯彬	大阪歯科大学理事長・学長 一般社団法人日本私立歯科大学協会会長
	越川 憲明	日本大学歯学部教授
	小森 貴	公益社団法人日本医師会常任理事
	齋藤 宣彦	公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長 聖マリアンナ医科大学名誉教授
	西原 達次	九州歯科大学理事長・学長
	林 美加子	大阪大学大学院歯学研究科教授
	前田 健康	新潟大学歯学部長
	俣木 志朗	東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科教授
	三塚 憲二	公益社団法人日本歯科医師会副会長
	山口 育子	NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長
オブザーバー	鳥山 佳則	厚生労働省医政局歯科保健課長

役職は平成26年9月1日現在
※50音順（敬称略）

歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議（第17回）

会 議 次 第

1. 日 時：平成26年10月29日（水）10:30～12:30

2. 場 所：文部科学省5階 5F7会議室

3. 議 題

- (1) 医学教育の改善・充実に向けた取組について
- (2) 諸外国の歯学教育の現状について
- (3) その他

4. 配付資料

- 資料1 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議（第16回）議事録（案）
- 資料2 共用試験によるStudent Doctor認定システム
- 資料3 診療参加型臨床実習のための医学生の実行為水準策定
- 資料4 諸外国の歯学教育の現状

別記 2

日時：平成 27 年 1 月 16 日（金）
10：00～12：00
場所：厚生労働省専用第 14 会議室

歯科医師の資質向上等に関する検討会構成員名簿

歯科医師の資質向上等に関する検討会（第1回）

第三次會議

- 検討会で議論する事項及び論点について
- その他

【資料】

- | | |
|------|---|
| 資料 1 | 「歯科医師の資質向上等に関する検討会」開催要綱 |
| 資料 2 | 歯科医師の資質向上に関係する検討会における主な報告 |
| 資料 3 | 歯科医師の資質向上に関して議論する主な事項 |
| 資料 4 | 歯科医師を取り巻く状況 |
| 資料 5 | 「歯科医師の資質向上等に関する検討会」において議論する事項及び指針について（たたき台） |
| 資料 6 | 医学教育の改善・充実に関するこれまでの取組（文部科学省） |

【参考文献】

- | | |
|--------|--|
| 参考資料 1 | 「今後の歯科保健医源と歯科医師の質向上等に関する検討会」中間報告 (H18.12) |
| 参考資料 2 | 「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」第1次報告 (H21.1) |
| 参考資料 3 | 「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」[提言・要綱] (H26.2) |
| 参考資料 4 | 「歯科専門職の資質向上検討会」報告書概要版 (H26.3)
一 歯科医師臨床研修制度の更なる充実に向けて一 |
| 参考資料 5 | 「歯科医師常勤研修医の経緯と今後への見解」[公益社団法人 日本歯科医師会] (H26.10) |

第 1 回歯科医師の資質向上等に関する検討会	資料 1
平成 27 年 1 月 16 日	

「歯科医師の資質向上等に関する検討会」開催要綱

(開催)

第1条 国民のニーズに基づき質の高い歯科医療を提供すること等を目的として、歯科医師の資質向上等に関する事項について総合的に議論を行うため、歯科医師の資質向上等に関する検討会（以下「検討会」という。）を開催する。

(検討事項)

第2条 検討会は、次の掲げる事項を協議する。

- (1) 歯科医師の需給対策に関すること。
- (2) 増加する女性歯科医師の活躍の場に関すること。
- (3) 歯科医療に求められる専門性に関すること。
- (4) その他、歯科医療の提供に関すること。

(組織及び運営)

- 第3条 検討会は、医政局長が参集する構成員をもって構成する。
- 2 検討会に座長を置く。なお、座長は互選により選出する。
- 3 座長は検討会を代表し、会務を統括する。
- 4 座長はあらかじめ座長代理を指名する。

(作業部会)

- 第4条 検討会の下に作業部会を設けることができる。
- 1 作業部会の任務は、検討会で議論される内容について、より専門的かつ技術的な事項について具体的な検討を行い、その結果を検討会に報告する。
- 2 検討会の座長は作業部会の座長をあらかじめ指名する。
- 3 作業部会には、検討会の座長が指名する委員が参加し、助言を行うものとする。
- 4 作業部会の座長はあらかじめ座長代理を指名する。

(事務局)

第5条 検討会の事務は、医政局歯科保健課において処理する。

(補足)

第6条 この要綱に定めるもののほか、検討会の運営について必要な事項は、検討会において協議して定める。

附 則

この要綱は、平成 26 年 11 月 20 日から施行する。

氏 名	所 属
伊東 隆利	医療法人伊東会 伊東歯科口腔病院理事長
伊藤 文郎	前愛知県津島市長
井上 孝	日本歯科医学会総務理事
江藤 一洋	医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長
川添 堯彬	大阪歯科大学理事長・学長
小森 貴	日本医師会常任理事
水田 祥代	九州大学名誉教授・福岡歯科大学常務理事
高梨 滋雄	高梨滋雄法律事務所
富野 晃	日本歯科医師会副会長
西原 達次	九州歯科大学学長
三浦 宏子	国立保健医療科学院国際協力研究部部長
三塚 憲二	日本歯科医師会副会長
南 紗	読売新聞東京本社取締役
森田 朗	国立社会保障・人口問題研究所所長
山口 育子	NPO 法人 ささえあい医療人権センターCOML 理事長

(オブザーバー)

寺門 成眞 文部科学省高等教育局医学教育課長

敬称略・五十音順 平成27年1月16日現在

年 月	出 典	主 要 報 告 内 容	質 料 2
			第1回歯科医師の質向上等に関する検討会 平成27年1月16日
平成18年12月	「今後の歯科保健医療と歯科医師の質向上等に関する検討会」 (厚生労働省)	歯科医師の質向上の観点から下記の内容が報告 ▶ 歯科医師養成課程においてコミュニケーション能力を有すること②歯学部入学時に一定の学力を有すること③社会人および医師間として信頼できると認定された通科医質を行ったための基本的発展を有することが重要 ▶ 歯学教育モデル・コア・カリキュラム、共用試験、歯科医師国家試験出題率及び出題枠を一体的に見据えた歯科医師費の在り方について、総合的かつ継続的な見直しを行うことが必要 ▶ 入学定員の削減により、平成10年度の検討会成果の中期実現に向けて、各大学の自主的かつ同向きの取り組みが相次いでいることである。このうち、歯科医師国家試験については、制度改善検討部会の検討を早期に開始し、合格者の引き上げや出題内容について偏らなく検討を行うべき	
平成19年12月	「歯科医師国家試験制度改修検討部会」 (厚生労働省)	歯科医師国家試験は、特定の歯科保健・医療を見据え、歯科医師の質向上の観点に立脚した改善が必要であることを踏まえ、下記の内容が報告 ▶ 出題基準は、大・中・小項目の位置づけを見直し、ブループリント（国家試験計表）を設定 ▶ 出題総数は恒例し、必修科目数は1必修の基本的事項を重視する観点から出題総数の2割程度に増加 ▶ 合格基準の基準となる方については、国民の期待に十分応え得るために、歯科医師のさらなる質向上を図る方向で、より適切な基準に改定すべき	
平成20年12月	「歯科医師臨床研修推進検討会」 (厚生労働省)	臨床研修制度に関する議論・充実について、今後の中長期的な課題を含め、下記の内容が報告 ▶ 臨床研修施設方式の推進について、今後の臨床研修制度を充実するためには、歯科診療所及び病院診療をより活用した方策を検討すべき ▶ 新たな臨床研修施設の研修指導体制について、管理型施設、協力型施設及び研修協力施設を有機的に連携させた新たな臨床研修施設の研修指導体制（「グループ化」）の導入を図ること、臨床診療所を中心として行われている歯科医家の現状に即した臨床研修施設の研修指導体制を構築することが可能 ▶ 歯科臨床研修医の適正な育成について、コース・ユニットを含む到達目標の見直し等も含めて、在宅歯科医療、病院歯科や保健所等を活用した地域医療、地域保健・保健活動の研修や全身体質の向上等に関する新たな方策の検討が必要	

別記 3

歯科医師・歯科医療の需給に関する調査研究ワーキンググループ（第1回）

1. 日 時 平成27年3月2日（月）15:00～17:00

2. 場 所 日本私立歯科大学協会 会議室

3. 議 題

（1）ワーキンググループの今後の進め方について

（2）その他

「歯科医師・歯科医療の需給に関する調査研究ワーキンググループ」

安 井 利 一	日本私立歯科大学協会副会長
小 林 馨	日本私立歯科大学協会事務理事
斎 藤 隆 史	日本私立歯科大学協会常務理事
豆 田 幸 夫	日本私立歯科大学協会理事
前 野 正 夫	日本大学歯学部長
羽 村 章	日本歯科大学生命歯学部部長

（敬称略）

（2）歯科医師国家試験について

1. 厚労省は、平成27年1月31日～2月1日に「第108回歯科医師国家試験」を実施し、3月18日に合格発表を行った。

【第108回】

	（出願者数）	（受験者数）	（合格者数）	（合格率）
新卒者	2,525 人	1,995 人	1,457 人	73.0%
全 体	3,695 人	3,138 人	2,003 人	63.8%

（昨年の状況）

【第107回】

	（出願者数）	（受験者数）	（合格者数）	（合格率）
新卒者	2,656 人	2,241 人	1,642 人	73.3%
全 体	3,644 人	3,200 人	2,025 人	63.3%

2. 第1回理事会（H26.5.26）において、歯科医師国家試験についての協会としての要望について、安井副会長の原案を基に今週中に意見を集約することとなった。文案は、協会がこれまで出したものを参考にし、内容は教育・研究部会での意見を載せているとの説明が安井副会長からあった。

また、国公立大学と同一歩調を取るかについては、協会は協会としての意見を出し、歯科大学学長・歯学部長会議は同会議として要望を出してもらうのがよいとの意見や、国立の先生とは温度差があるので私学のことを理解してもらい一緒

に行動してもらえよう努力してはどうか等の意見があった。議論の結果、協会として厚生労働省に要望を出すこととなった。なお、提出先は、川添会長に一任された。

3. 第2回理事会(H26.6.23)において、川添会長から、6月9日(月)に、小林専務理事、事務局長と三人で、鳥山歯科保健課長を訪ね、配付資料にある文書を手渡した。その際、次のような話があったとの報告があった。(別記4)

- 国家試験制度の改正は、4年に一度行われる。医道審議会の歯科医師分科会で審議されるので、そこへこの要望を伝える。

- 次の改正は、来年度後半に議論が始まり、28年度中に出題基準の改正があり、30年の国試から適用されることになる。基準改正の際には、日本私立歯科大学協会からも委員を出していただくことになるだろう。

(1) 採点除外問題について

- 採点除外問題は、極力少なくしていきたい。

- 必修問題は、目安として8割を正答率としている。正答率が低いときは、必修問題として不適ということ除外するが、実際に試験をやってみないとわからないところがある。単純に除外すると不公平になるので、正解者はそのまま、不正解者は除外することとしているが、母数を変えることで不利にならないようにしている。問題作成の先生方には、一問でも少なくなるようにと依頼している。

(2) 適切な合格率の維持について

- 制度改正の会議の中で議論していきたい。可否基準は、来年から始まる会議の検討事項になろう。

(3) 絶対禁忌肢問題について

- 地雷問題のみで不合格になる方は限りなくゼロに近い。少なくとも今回の試験ではゼロに近い。

- かねてから言われているので、絶対禁忌肢問題の適切さについても会議で議論していただくことになろう。

- 絶対禁忌肢問題は、歯科医師なら知っておいて欲しい内容である。次回の改正までは、絶対禁忌肢問題は引き続き存在することになる。

- 一般問題の中に臨床関連の問題が入っているが、医師国家試験を踏襲しているからである。制度改正の際検討することになろう。厚生労働省としては、今の在り方が100%良いと思っているわけではない。

- 問題を作成していただく先生方は、ご苦労されている。クイズ的ではない、臨床の問題をお願いしている。補綴領域は、臨床的な内容については、写真の出来不出来で正解率が変わるので、負担をかけている。国家試験の問題として適切な視覚用教材となる写真があるかなど、ご苦労をおかけしている。

○（現状の 365 問を増やす予定があるかということについて）

歯科の 365 問を増やせという声は、聞いたことがない。問題を増やすと、予備問題の作成も増えるなど、先生方の負担がさらに重くなる。

このような回答があり、要望書については大臣、医政局長に届けるとの話があった。なお、改めて文書での回答はしないとのことであった。

この報告に対して、以前、歯科医師国家試験に係る問題について何万問もストックしてそこからランダムに出題するという話があったが、どうなっているか、そういう方法をとれば少なくとも不適切問題の話はかなりクリアできるのではないか、ピラミッド型で最後に限られた人で試験問題が決められる今の体制でいいのかどうか、との意見があった。これに関連して、厚労省の問題作成に携わる幹事会のメンバーや委員長の選び方に問題がある、等の意見があった。

また、要望書の中の「相対基準の運用に主たる原因があるのではないか」という指摘について厚労省はどのように答えているのかという質問があり、それに関しては川添会長から今回の回答にはないとの説明があった。

4. 第 5 回理事会 (H27.2.16) において、川添会長から、「不適切と考えられる問題に関しての意見」を事務局に提出・持参された大学への謝辞が述べられ、各大学でもまとめ次第、厚労省に提出するよう要請があった。協会としても、提出されたものをまとめ厚労省に提出したいとの説明があった。

別記 4

〔別紙〕

歯大協発第 2 2 号
平成 26 年 6 月 9 日

厚生労働大臣
田村 憲久 様

厚生労働大臣
田村 憲久 様

一般社団法人 日本私立歯科大学協会
会 長 川 添 竜 彰

歯科医師国家試験について（要望）

第 107 回歯科医師国家試験の結果に基づき、私ども協合理事会において協議しましたが、合否判定について疑義と意見を申し述べ、受験生の国家試験合格に關する公平性と公正性確保のため、早急に是正措置をお取りくださるよう強く要望いたします。

歯科医師国家試験について（要望）

貴職におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、歯科医師国家試験の合否判定につきましては、当協会といたしまして受験生の合否に関する公平性公正性を確保するため、厚生労働省に対しまして速やかな改善を要望してきているところであります。

このたび、第 107 回歯科医師国家試験の合否判定結果を受けて、当該課題につきまして当協会平成 25 年度第 9 回理事会 (H26.3.24) および平成 26 年度第 1 回理事会 (H26.5.26) において検討・協議いたしました結果、別紙の通り要望いたしますので、よろしくお取り計らいくださいますようお願い申し上げます。

なお、一般社団法人たる本協会は、国民の健康な生活を確保する歯科医師を教育する我が国のすべての私立歯科大学・歯学部により構成されており、したがって、歴史的に見ても、我が国の歯科医療を支える歯科医師の養成に關して最も重要な立場にあるとて過言ではありません。したがって、本協会からの要望等につきましては誠意ある回答を下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 歯科医師国家試験は資格試験であること

歯科医師国家試験は、歯学部養成教育 6 年間を終了した者を対象にして実施される資格試験であります。しかるに、第 107 回歯科医師国家試験については次の点で資格試験としての受験者の公平性公正性が担保されていないと思料します。

1) 採点除外問題について

第 107 回歯科医師国家試験においては合計 18 題もの採点除外問題等があり、なかでも必修問題については 10 題の採点除外問題が出ました。この取り扱いについて「採点から除外する」あるいは「正解した受験生については採点対象に含め、不正解の受験者については採点対象から除外する」との処置を講じています。しかし、このような処置を実施することは、受験生の解答状況によっては得点の不公平を生じる可能性があり、採点除外問題を減ずるための徹底した管理運営が必要であります。

2) 相対基準の設定について

合格者の判定基準については一切明らかにされていないが、絶対基準ではなく、相対基準を用いる場合には本来その基準の採用を明確にするべきと考えます。相対基準の導入に關しては、出題される問題の難易度調整を行い、安定した合格率を出すことが目的と理解しています。

しかし、歯科医師国家試験は医師国家試験等の医療関係者試験のなかで見た場合の合格率安定性は高いと言えない状況です。例えば、第 107 回歯科医師国家試験受験者数 3200 人と同数であった、第 100 回歯科医師国家試験での合格率は全体で 74.2%、新卒者で 80.9%であり、第 107 回歯科医師国家試験の合格者との乖離は全体で 10.9% (350 人)、新卒者で 7.6% (445 人) の差があり

これを受験生の質の低下と傳論する者もいるようですが、6 年間の教育課程において厳しく教育を行い、そして的確に成績評価を実施し、卒業させている大学に対してきわめて悪く思われます。

大学を卒業した学生の質の問題よりも、例えば、受験者の得点分布を標準正規分布と仮定した場合に、第 103 回歯科医師国家試験から第 105 回歯科医師国家試験の新卒者合格率についての合格境界値は平均 -0.9 の近似値と予想されますが、第 107 回歯科医師国家試験においては平均 -0.6 の近似値と予想され、相対基準の運用に干渉する原因があるのではないかと推察されます。

国家が実施する資格試験において、受験する年度の違いによって、このような差を生じることが平等性に欠ける点であります。相対評価基準の運用を適正に行うように重ねて強く要望いたします。

2. 歯科医師国家試験は法に基づく試験であること

歯科医師国家試験は歯科医師法第 8 条により「歯科医師国家試験は、臨床に必要な歯科医学及び口頭問答に關して、歯科医師として具有すべき知識及び技能について、これを行う。」と定められています。然るに、絶対禁忌肢問題は、365 問中 2 問で不合格と言う、いわゆる地雷問題であります。このような出題の在り方は、法の趣旨に基づくものでなく、かつ受験生に対していたずらに恐怖心を与えるだけであり国家試験としては不適であると考えられます。

本協会は次のことを要望します。

1. 採点除外問題を減ずるための徹底した管理運営を行うこと。
2. 資格試験として適切な合格率を維持すること。
3. 絶対禁忌肢問題を出現しないこと。

ご多用の折から恐縮に存じますが、以上の 3 点につき、可及的速やかにご回答を賜りますようお願い申し上げます。

平成 26 年 6 月 9 日

一般社団法人 日本私立歯科大学協会

会 長	川 添 亮 彰	大 阪 歯 科 大 学 理 事 長・学 長
北 村 嘉 司	福 岡 歯 科 大 学 学 長	
井 出 吉 信	東 京 歯 科 大 学 学 長	
安 井 利 一	明 海 大 学 学 長	
小 林 輝 敬	鶴 見 大 学 歯 学 部 長	
大 野 敬 典	奥 羽 大 学 歯 学 部 長	
斎 藤 隆 史	北 海 道 医 療 大 学 歯 学 部 長	
小 出 忠 孝	愛 知 学 院 大 学 学 院 長	
中 原 泉	日 本 歯 科 大 学 理 事 長・学 長	
宮 崎 隆 昭	昭 和 人 学 歯 学 部 長	
三 浦 廣 行	岩 手 医 科 大 学 歯 学 部 長	
越 川 憲 明	日 本 大 学 歯 学 部 長	
淡 谷 錦 雄	日 本 大 学 松 戸 歯 学 部 長	
関 本 恒 犬	日 本 歯 科 大 学 新 潟 生 命 歯 学 部 長	
大 友 克 之	朝 日 大 学 学 長	
平 田 幸 夫	神 奈 川 歯 科 大 学 学 長	
矢 崎 雅 雄	松 本 歯 科 大 学 理 事 長・学 長	

(3) 歯科医師臨床研修について

1. 第 1 回理事会 (H26. 5. 26) において、小林専務理事から、「歯科医師臨床研修事業収支」及び「附属病院の収支」の実態調査について、本日 (5. 26) が決切となっていること及び調査協力の依頼があった。
2. 第 2 回理事会 (H26. 6. 23) において、小林専務理事から、「歯科医師臨床研修事業収支等の実態調査」への各大学の協力について、お礼が述べられた。調査結果について、事務局から説明があった。
3. 第 79 回総会 (H27. 3. 16) において、病院部会及び経営部会で以下のような協議がなされたとの報告がされた。

(1) 病院部会

- 臨床研修について、特に、経費の面で非常に厳しく、今後、募集数を削減する方向も考慮すべきではないかという意見・提案があり、これについて意見交換をしたが、多くは現状維持で当面行ったほうが良いのではないかという意見であった。
- 臨床研修にかかる費用が削減されており、これについて厚労省にしっかりと訴えるべきである、元々国立と私立でダブルスタンダードになっていることは非常に問題で、今後もそれについてしっかりと意見を言い続けていく必要がある。

- このことについては経営部会や教育・研究部会でも同じような話がこれまでもされているので、今後意見を集約して、理事会等で今後の対応というものを一本化していく必要があろう。

(2) 経営部会

- 今年の活動計画の中にあったように、研修医に対する補助金の使用制限が出ているが、実際は、財源そのものが2割、2割と削減されてきているので、それが非常に経営を圧迫している。

(4) 附属病院の感染対策について

1. 第2回理事会(H26.6.23)において、北村副会長(附属病院感染対策協議会議長)から、第6回附属病院感染対策協議会(H26.6.3)について、以下の説明があった。

- 附属病院の感染対策は、マスコミ等でも大きく報道され、社会的にも大きな関心事である。このことから、平成23年度に、附属病院感染対策協議会を設置して情報交換を進めるとともに、国公立大学や私立医科大学の感染対策協議会へもオブザーバー参加し情報収集を行ってきた。こうした流れの中で、アンケート調査を開始して、今年度においてもアンケート調査を実施することとし、「手指衛生及び教育等に関するアンケート調査」を4月に行った。この調査は、「手指衛生に関するアンケート調査」と、「感染対策教育等及び血液暴露事故対応に関するアンケート調査」の二つからなっているとの説明があり、各大学に対し調査への協力についてお礼が述べられた。(別記5)

また、この調査結果は、6月3日開催の附属病院感染対策協議会、6月16日開催の病院部会で詳しく報告したので、それぞれの大学で活用していただきたいとの説明があった。

- 平成27年度に実施される医療事故防止のための国公立大学歯学部間の相互チェックについては、3月の理事会で全17大学が参加することが了承されたことから、各大学に準備を進めて欲しい。そのために、病院部会・附属病院感染対策協議会は必要な情報があればできる限り提供したい。その一つとして、各大学が作っている感染対策マニュアルを協会に集めたので、可能なものについて電子ファイル化し、利用しやすいようにしたいとの説明があった。
- 5月18日の読売新聞で歯科医療機関の7割でハンドピースが使い回しされているとの報道があり、また、5月24日の同紙には「院内感染防止策を徹底せよ」の報道がなされているが、こうした報道により、社会が歯科医療機関の感染対策について不信を生じるような状況が生じている。各大学では当然対応していると思うが、開業医の3割程度しか消毒が行われていないというような状況であると、今後、臨床研修医に対する感染対策教

育を充実するとともに、協力施設に対してもしっかりと働きかける必要があると考えられるので、病院部会で協議していきたいと思うとの説明があった。

なお、これに関連し、厚労省が6月4日付で「歯科医療機関における院内感染対策について」(都道府県等衛生主管部(局)長宛)という文書を、歯科保健課長名で通知した。そこに「一般歯科診療時の院内感染対策に係る指針」(日本歯科医学会厚生労働省委託事業「歯科保険医療情報収集等事業」一般歯科診療時の院内感染対策作業班)がQ & Aの形でまとめられているので、活用されたいとの説明があった。

2. 第3回理事会(H26.11.4)において、北村副会長・病院部会長から、7月17日付で各大学に依頼した「歯科診療用各種ハンドピースの滅菌・管理に関するアンケート調査」について趣旨が説明され、現在、集計中であるとの報告があった。また、調査協力への謝辞が述べられた。(別記6)
3. 第6回理事会(H27.3.16)において、北村副会長から、附属病院感染対策協議会が昨年実施した「歯科診療用各種ハンドピースの滅菌・管理に関するアンケート調査」を集計・分析したこと、また「手指衛生及び教育等に関するアンケート調査」について分析を加えたことが説明され、今後各大学で感染対策の向上に利用していただきたいとの説明があった。また、資料は、現時点では各大学の内部資料として扱うこととされたい旨の説明があった。

一般社団法人 日本私立歯科大学協会
附属病院感染対策協議会
委 員 殿一般社団法人 日本私立歯科大学協会
附属病院感染対策協議会
議 長 北 村 憲 司
副議長 小 林 肇

調査票 1

—手指衛生に関するアンケート調査—

「アンケート調査」の実施について(依頼)

謹啓 陽春の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年 1 2 月に開催しました「附属病院感染対策協議会」において、全私立歯科大学・歯学部に対しまして、昨年に引き続き「歯科診療における院内感染対策に関する調査(アンケート)」を実施することを決定頂き、その後、先月には、調査項目(案)に関しまして多くの貴重なご意見をお寄せ頂きまして誠に有りました。

頂きましたご意見をできる限り反映いたしまして、今般、調査票を確定いたしました。

つきましては、学務ご多忙の折、誠に恐縮でございますが、

調査票 1 手指衛生に関するアンケート 調査—

に貴大学の状況をご記入頂きまして、4 月 2 5 日(金)までに、下記、日本私立歯科大学協会・事務局まで、郵送(又は、FAX)頂きたくどうぞ宜しくお願いいたします。

また、昨年 5 月に実施いたしましたアンケート調査項目のうち、毎年、継続してアンケートを実施したほうが良いと思われる項目を選択しまして、

調査票 2 教育等に関するアンケート 調査—

として同封させて頂きましたので、併せて、ご記入頂きまして、4 月 2 5 日(金)までに、下記、日本私立歯科大学協会・事務局まで、郵送(又は、FAX)頂きたくどうぞ宜しくお願いいたします。 謹白

一般社団法人 日本私立歯科大学協会事務局
〒102-0074 東京都千代田区九段南 3-3-4
ニューライフビル内
TEL: 03-3265-9068
FAX: 03-3265-9069
E-mail: jimkyoku@shikadaiko.or.jp

回答日:

医療機関名:

回答者氏名:

連絡先(Tel):

(E-mail):

(ご回答いただいた担当者の方には、内容確認のため後日個別に連絡を取らせていただくことがありますので、ご協力をお願い申し上げます)

1. 病院全体としての取り組みおよび現状について

手指衛生遵守率向上のために、病院全体として以下のような取り組みを実施していますか?講演会、研修会等を実施している場合は、実施頻度を併せてご回答ください。

a. 手指衛生マニュアルの作成

- ☐
- 作成済み
-
- ☐
- 作成していない
-
- ☐
- 現在作成中
-
- ☐
- 今後作成予定
-
- ☐
- 作成予定はない

(理由:)

※院内感染対策マニュアルの中に手指衛生に関する部分がある場合は「作成済み」としてください。

b. 手指衛生啓発ポスターの作成・掲示

- ☐
- 作成・掲示済み
-
- ☐
- 作成していない
-
- ☐
- 現在作成中
-
- ☐
- 今後作成予定
-
- ☐
- 作成予定はない

(理由:)

c. 手指衛生に関する小冊子やビラ、newsletter の発行

- ☐
- 発行している
-
- ☐
- 発行していない
-
- ☐
- 現在準備中
-
- ☐
- 今後発行予定
-
- ☐
- 発行予定はない

(理由:)

d. 院内講演会(講演、講義主体)の実施

- ☐
- 定期的実施している(回/年)
-
- ☐
- 非定期的に実施している
-
- ☐
- 実施していない
-
- ☐
- 今後実施していく予定
-
- ☐
- 実施する予定はない

(理由:)

e. 院内研修会(速乾性擦式手指消毒剤の使用法などの実習主体)の実施

- ☐
- 定期的実施している(回/年)
-
- ☐
- 非定期的に実施している
-
- ☐
- 実施していない
-
- ☐
- 今後実施していく予定
-
- ☐
- 実施する予定はない

(理由:)

f. 手指衛生チェックラウンドの実施

- ☐
- 定期的実施している(回/年、 回/月、 回/週) → 項目 g にもお答えください
-
- ☐
- 非定期的に実施している(回/年程度) → 項目 g にもお答えください
-
- ☐
- 実施していない
-
- ☐
- 今後実施していく予定
-
- ☐
- 実施する予定はない

(理由：)

※Infection Control Team のラウンド中に手指衛生に関するチェックがある場合は「実施」としてください。

g. 手指衛生チェックラウンド結果のフィードバックの実施

☐ 実施している (方法：)

☐ 実施していない

☐ 今後実施していく予定

☐ 実施する予定はない

(理由：)

h. 携帯用手指消毒剤の配布

☐ 配布している (複数回答可)

☐ 医師・歯科医師

☐ 看護師

☐ 歯科衛生士

☐ 歯科技工士

☐ その他

(具体例：)

☐ 配布していない

☐ 今後配布する予定

☐ 配布する予定はない

(理由：)

i. 手指衛生製品 (石けん液や速乾性擦式手指消毒剤) の使用量調査

☐ 調査している → 項目 j にもご回答ください

☐ 石けん液

☐ 速乾性擦式手指消毒剤

☐ その他

(具体例：)

☐ 調査していない

4

☐ 手指衛生製品の使用量調査

☐ その他

(具体例：)

m. 手指衛生遵守率を向上させる上で、障害または解決すべき課題はどれですか? (複数回答可)

☐ 教育・啓発効果が持続しない

☐ 効果的教育方法が確立されていない

☐ スタッフ・職種間の意識の差

☐ 効果的チェック方法が確立されていない

☐ 適切な介入が困難

☐ 時間不足 (講演会、研修会、フィードバックなど)

☐ 人員不足 (感染対策専従者の配置など)

☐ 経済的負担 (細菌検査費用など)

☐ その他

(具体例：)

6

☐ 今後調査していく予定

☐ 調査する予定はない

(理由：)

j. 手指衛生製品使用量の調査方法 (複数回答可)

☐ 払い出し量または請求量

☐ 容器に線を引く

☐ 重量測定

☐ 空ボトル数

☐ その他

(具体例：)

k. その他に、どのような取り組みを現在行っていますか? (複数回答可)

☐ 蛍光塗料・色素などを用いた手指衛生到達度チェック

☐ 手指の細菌培養検査

☐ 手指衛生強化期間の設定

☐ 手指衛生キャンペーンの実施

☐ 同僚による手指衛生相互チェック

☐ その他

(具体例：)

l. 手指衛生遵守率を向上させる上で、効果的と考えられるものはどれですか? (複数回答可)

☐ 手指衛生マニュアルの作成

☐ 手指衛生啓発ポスターの作成・掲示

☐ 院内講演会の実施

☐ 院内研修会の実施

☐ 携帯用手指消毒剤の配布

☐ 手指衛生チェックラウンドの実施

☐ 手指衛生チェックラウンド結果のフィードバック

5

2. 診療科・診療部門ごとの取り組みおよび現状について

手指衛生に関して、**診療科または診療部門の外来における**現状についてご回答ください。同僚による相互チェック等を実施している場合は、実施頻度を併せてご回答ください。

2-1. 歯科診療科外来

a. 診療科または部署名を記載下さい ()

b. 診療室内の手洗い設備

☐ ある

(手洗い設備: _____ 台、診療ユニット: _____ 台)

→ 項目 cへ

☐ ない

c. 手洗い設備の蛇口の種類は以下のうちどれですか? (複数回答可)

☐ センサー付きハンズフリー

☐ 足踏み式ハンズフリー

☐ レバー式

☐ 手動式

☐ その他

(具体例：)

d. 診療科内の全手洗い設備のうち、以下のものの台数はいくつですか?

センサー付きハンズフリー	_____ 台
足踏み式ハンズフリー	_____ 台
レバー式	_____ 台
手動式	_____ 台
その他	_____ 台
(合計)	_____ 台

7

- e. 手指衛生に用いられている水はどのようなものですか？
- ☐ 管理された水道水
- ☐ 温水
- ☐ 滅菌水（フィルター、紫外線）
- ☐ その他
- （具体例： ）
- f. 速乾性擦式手指消毒剤を配置していますか？またその配置頻度はどれくらいですか？
- ☐ はい
- ☐ 各診療ユニットに 1 個
- ☐ 診療ユニット 台に 1 個
- ☐ 診療ユニット毎には配置していない
- 診療室（診療ユニット 台）に 個
- ☐ その他
- （具体例： ）
- ☐ いいえ（理由： ）
- g. 速乾性擦式手指消毒剤を診療ユニット以外に配置していますか？（複数回答可）
- ☐ はい
- ☐ 診療科受付
- ☐ 画像撮影場所
- ☐ 共用機器（電子カルテ入力端末など）
- 周辺
- ☐ 手洗い設備周辺
- ☐ その他
- （具体例： ）
- ☐ いいえ
- h. どのような際に手指衛生を実施していますか？（複数回答可）
- ☐ 診療室入室時

8

- ☐ いいえ
- m. 診療途中で共用設備・機器に触れる場合、手袋を交換していますか？
- ☐ はい
- ☐ いいえ
- n. 診療科または診療部門内で、手指衛生に関してスタッフ同士による相互チェック等を行っていますか？
- ☐ はい → 項目 o についてもご回答ください
- ☐ 全スタッフ同士が相互に行っている
- ☐ 医師または歯科医師同士のみ行っている
- ☐ 看護師同士のみ行っている
- ☐ 歯科衛生士同士のみ行っている
- ☐ その他（具体例： ）
- ☐ いいえ
- o. スタッフ同士による相互チェックはどれくらいの頻度で行っていますか？
- ☐ 定期的に行っている
- （ 回/年、 回/月、 回/週）
- ☐ 非定期的に行っている
- （概して、 回/年、 回/月、 回/週程度）

10

- ☐ 診療室退出時
- ☐ 電子カルテ入力端末・PC 使用前
- ☐ 電子カルテ入力端末・PC 使用后
- ☐ PHS・電話操作前
- ☐ PHS・電話操作後
- ☐ 患者診察・診療前
- ☐ 患者診察・診療後
- ☐ 共用設備・機器使用前
- ☐ 共用設備・機器使用后
- ☐ その他
- （具体例： ）
- i. 患者診察・診療時に手袋を着用していますか？またその手袋はどのようなものですか？（複数回答可）
- ☐ はい
- ☐ ラテックス製
- ☐ ビニル製
- ☐ ニトリル製
- ☐ 滅菌済み手袋
- ☐ その他
- （具体例： ）
- ☐ いいえ
- j. 患者毎に手袋を交換していますか？
- ☐ はい
- ☐ いいえ
- k. 手袋を装着前に、手指衛生を実施していますか？
- ☐ はい
- ☐ いいえ
- l. 手袋を脱いだ後、手指衛生を実施していますか？
- ☐ はい

9

2-2. 病棟

- a. 診療科名を記載下さい（ ）
- b. 診療室内の手洗い設備
- ☐ ある
- （手洗い設備： 台、診療ユニット： 台）
- 項目 cへ
- ☐ ない
- c. 手洗い設備の蛇口の種類は以下のうちどれですか？（複数回答可）
- ☐ センサー付きハンズフリー
- ☐ 足踏み式ハンズフリー
- ☐ レバー式
- ☐ 手動式
- ☐ その他（具体例： ）
- d. 病棟内の全手洗い設備のうち、以下のものの台数はいくらかですか？
- | | |
|--------------|---|
| センサー付きハンズフリー | 台 |
| 足踏み式ハンズフリー | 台 |
| レバー式 | 台 |
| 手動式 | 台 |
| その他 | 台 |
| （合計） | 台 |
- e. 手指衛生に用いられている水はどのようなものですか？
- ☐ 管理された水道水
- ☐ 温水
- ☐ 滅菌水（フィルター、紫外線）
- ☐ その他
- （具体例： ）

11

f. 速乾性擦式手指消毒剤を配置していますか？またその配置頻度はどれくらいですか？

- ☐ はい
- ☐ 各診療ユニットに 1 個
- ☐ 診療ユニット _____ 台に 1 個
- ☐ 診療ユニット毎には配置していない
診療室（診療ユニット _____ 台）に _____ 個
- ☐ その他
(具体例： _____)
- ☐ いいえ（理由： _____)

g. 速乾性擦式手指消毒剤を診療ユニット以外に配置していますか？（複数回答可）

- ☐ はい
- ☐ スタッフルーム（ナースステーションを含む）
- ☐ 共用機器（電子カルテ入力端末など）
周辺
- ☐ 手洗い設備周辺
- ☐ 各病室入り口
- ☐ 各病室内
- ☐ その他
(具体例： _____)
- ☐ いいえ

h. どのような際に手指衛生を実施していますか？（複数回答可）

- ☐ 診療室入室時
- ☐ 診療室退出時
- ☐ 電子カルテ入力端末・PC 使用前
- ☐ 電子カルテ入力端末・PC 使用后
- ☐ PHS・電話操作前
- ☐ PHS・電話操作後

12

- ☐ 患者診察・診療前
- ☐ 患者診察・診療後
- ☐ 共用設備・機器使用前
- ☐ 共用設備・機器使用后
- ☐ その他（具体例： _____)

i. 患者診察・診療時に手袋を着用していますか？またその手袋はどのようなものですか？（複数回答可）

- ☐ はい
- ☐ ラテックス製
- ☐ ビニル製
- ☐ ニトリル製
- ☐ 滅菌済み手袋
- ☐ その他（具体例： _____)
- ☐ いいえ

j. 患者毎に手袋を交換していますか？

- ☐ はい
- ☐ いいえ

k. 手袋を装着前に、手指衛生を実施していますか？

- ☐ はい
- ☐ いいえ

l. 手袋を脱いだ後、手指衛生を実施していますか？

- ☐ はい
- ☐ いいえ

m. 診療途中で共用設備・機器に触れる場合、手袋を交換していますか？

- ☐ はい
- ☐ いいえ

13

n. 診療スタッフが携帯用手指消毒剤を利用していますか？（複数回答可）

- ☐ はい → 項目 o にもご回答ください
- ☐ 全診療スタッフが利用している
- ☐ 一部の診療スタッフが利用している
- ☐ 歯科医師・医師のみが利用している
- ☐ 看護師のみが利用している
- ☐ 歯科衛生士のみが利用している
- ☐ その他のスタッフのみが利用している
- ☐ 職種にかかわらず、一部のスタッフのみが利用している
- ☐ その他
(具体例： _____)
- ☐ いいえ

o. 診療スタッフが利用している携帯用手指消毒剤の調達方法は、何ですか？

- ☐ 病院で一括購入
- ☐ 診療科または診療部門で購入
- ☐ 職種単位で購入
- ☐ 個人購入
- ☐ その他
(具体例： _____)

p. 診療科または診療部門内で、手指衛生に関してスタッフ同士による相互チェック等を行っていますか？

- ☐ はい → 項目 q についてもご回答ください
- ☐ 全スタッフ同士が相互に行っている
- ☐ 医師または歯科医師同士のみ行っている
- ☐ 看護師同士のみ行っている
- ☐ 歯科衛生士同士のみ行っている
- ☐ その他

14

(具体例： _____)

☐ いいえ

q. スタッフ同士による相互チェックはどれくらいの頻度で行っていますか？

- ☐ 定期的に行っている
(_____ 回/年、 _____ 回/月、 _____ 回/週)
- ☐ 非定期的に行っている
(概して、 _____ 回/年、 _____ 回/月、 _____ 回/週程度)

15

2-3. 口腔外科（手術室）

a. 手洗い用水はどのようなものですか？

- ☐ 管理された水道水
☐ 温水
☐ 滅菌水
☐ その他

（具体的に： _____ ）

b. 予備手洗いに用いているものはどれですか？

- ☐ 流水のみ（水道水）
☐ 流水のみ（滅菌水）
☐ 流水（水道水）＋ 非抗菌性石けん
☐ 流水（水道水）＋ 抗菌性石けん
☐ 流水（滅菌水）＋ 非抗菌性石けん
☐ 流水（滅菌水）＋ 抗菌性石けん
☐ その他

（具体的に： _____ ）

c. 手洗い方法（複数回答可）

- ☐ ブラシ使用
☐ ブラシ使用（指先のみ）
☐ もみ洗い
☐ 速乾性擦式手指消毒剤による擦式消毒
☐ その他

（具体的に： _____ ）

d. 手洗い後何で手を拭きますか？

- ☐ 滅菌布タオル
☐ 滅菌ペーパータオル
☐ 未滅菌ペーパータオル
☐ エアータオル（ハンドドライヤー）
☐ その他

16

e. 使用している速乾性擦式手指消毒剤は何ですか？

（ _____ ）

f. 速乾性擦式手指消毒剤は何度擦り込んでいますか？

_____回

以上です。

17

調査票 2

—教育等に関するアンケート調査—

<1. 教 育>

Q 1 「院内感染対策」についての学部学生への講義について（実施している施設は表にも記載下さい。）

a 実施している b 実施していない

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
講義の実施						
講義時間 *1						
担当講座・教室名						

*1 1コマ1時間で換算して下さい。

Q 2 「院内感染対策」について臨床実習生（病院生）への講義について

a 実施している b 実施していない

実施している施設は、
・時期はいつで、何回行われていますか。（時期： _____、回数： _____回）
・講義はどこが担当されていますか。＜複数回答可＞
（ _____ 講座 ・ 教室 ・ 院内感染対策委員会 ・ I C T ）
・何コマ（1コマ1時間で換算して下さい）講義されていますか。（ _____ コマ ）

Q 3 「院内感染対策」についての臨床研修歯科医師への講義について

a 実施している b 実施していない

実施している施設は、
・時期はいつで、何回行われていますか。（時期： _____、回数： _____回）
・講義はどこが担当されていますか。＜複数回答可＞
（ _____ 講座 ・ 教室 ・ 院内感染対策委員会 ・ I C T ）
・何コマ（1コマ1時間で換算して下さい）講義されていますか。（ _____ コマ ）

- 1 -

Q 4 昨年、病院教職員に「院内感染対策講習会」を何回開催されましたか。

a 0回 b 1回 c 2回 d 3回以上

<2. 針刺し・切創対応>

Q 5 平成 24 年度に貴院で針刺し・切創は何件ありましたか。職種毎に件数をご記入下さい。＜複数回答可＞

総数 _____件

a 歯科医師（教員） _____件 b 研修医（教員以外） _____件 c 卒直後研修歯科医師 _____件
d 歯科衛生士 _____件 e 看護師 _____件 f 大学院生 _____件 g 病院生 _____件
h 歯科衛生士学生 _____件 I その他（ _____ ） _____件

Q 6 受傷後に HIV 抗体検査をしていますか。

a している b していない

Q 7 傷害保険に加入されていますか。

a 歯学部学生 はい いいえ
b 衛生士学校学生 はい いいえ
c 大学院生 はい いいえ

Q 8 受傷の汚染源（患者など）が特定できない場合、抗 HIV 薬を服用を推奨していますか。

a はい b いいえ

Q 9 抗 HIV 薬を自施設で常備していますか。

a はい b いいえ

※常備していない場合
常備している他施設を把握していますか。
a 把握している b 把握していない

以上です。

- 2 -

一般社団法人 日本私立歯科大学協会
附属病院感染対策協議会
委 員 殿

一般社団法人 日本私立歯科大学協会
附属病院感染対策協議会
議 長 北 村 憲 司
副議長 小 林 肇

「歯科診療用各種ハンドピースの滅菌・管理に関する
アンケート調査」の実施について（依頼）

謹啓 盛夏の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、歯科診療用ハンドピースの滅菌処理に関する歯科医療機関への実態調査の結果につ
いての中央紙における報道（別添 1 参照）を受け、本協会の第 6 回附属病院感染対策協議会
（6 月 3 日開催）ならびに平成 2 6 年度第 1 回病院区会（6 月 1 6 日開催）において、各
大学の状況や本協会の対応等について協議いたしました。その際に各委員の先生方から頂戴い
たしましたご意見を踏まえまして、このたび標記アンケート調査を実施することといたし
ました。

アンケート調査票の作成は、先般「手指衛生に関するアンケート調査」のとりまとめをご
担当いただいた経緯から、本感染対策協議会委員の里村先生（鶴見大学歯学部教授）にお願
い致しました。

つきましては、学務ご繁忙の折、誠に恐縮でございますが、同アンケート調査票に貴大学
の状況等をご記入のうえ、アンケート内容の性格上、ご回答の取り扱いには厳重なる注意を
要しますことから、必ず同封いたしました返信用レターパックに封入いただきまして、8 月
8 日（金）までに、本協会事務局へご返送くださいますよう、ご協力のほどお願い申し上げ
ます。（レターパックの保管用シールは、協会事務局にて保管させていただいておりますこ
とを申し添えます。）

なお、参考資料として、前記「別添 1」のほか、厚生労働省が同報道を受け、都道府県等
の衛生主管部（局）長宛に通知した文書（別添 2）を同封いたしますので、ご高覧ください。
謹 白

一般社団法人 日本私立歯科大学協会
事 務 局
〒102-0074
東京都千代田区九段南 3-3-4
ニューライフビル内
TEL: 03-3265-9068
FAX: 03-3265-9069
E-mail: jimkyoku@shikadaikyo.or.jp

歯科診療用各種ハンドピースの
滅菌・管理に関するアンケート調査

回答日：

医療機関名：

回答者氏名：

連絡先（Tel）：

（E-mail）：

（ご回答いただいた担当者の方には、内容確認のため後日個別に連絡を取らせ
ていただくことがありますので、ご協力をお願い申し上げます）

1. 病院について

a. 平成 2 5 年度の 1 日平均患者数はいくらかですか？

（ ）人

b. 歯科診療用ユニット数はいくらかですか？

（ ）台

2. エアータービンハンドピースについて

a. 病院全体で保有している数はいくらかですか？

（ ）本

b. 患者毎に交換していますか？

- ☐ 必ず交換している
☐ ときどき交換している
☐ 感染症患者のときだけ交換している
☐ 交換していない
☐ その他 → 現状について簡単にご説明下さい。

c. 使用後の処理はどのようにしていますか？

- ☐ すべて必ず滅菌
☐ 感染症患者のときのみ滅菌（滅菌しないものは消毒）
☐ 感染症患者のときのみ滅菌（滅菌しないものは洗浄）
☐ 一部のみ滅菌（滅菌しないものは消毒）
☐ 一部のみ滅菌（滅菌しないものは洗浄）
☐ 滅菌していない（すべて消毒）
☐ 滅菌していない（すべて洗浄）
☐ その他 → 現状について簡単にご説明下さい。

d. 滅菌あるいは消毒の方法および使用機材について簡単にお知らせ
下さい。

e. 診療を行う上で、現在保有している数は十分ですか？

- ☐ 十分
☐ 不十分 → 十分と考えられる数を 100%とした場合、
現在の保有数はどのくらいですか？
（ ） %

- f. 限られた数のハンドピースを効率的に使用するために、何か特別な工夫や対応を行っていますか？
- ☐ 行っている → 差し支えなければ、簡単にご説明下さい。
- ☐ 現在検討中 → 差し支えなければ、簡単にご説明下さい。

☐ 行っていない

- g. ハンドピース1本あたりの購入価格はいくらですか？
() 円

- h. 故障するハンドピースの数は1年間でどのくらいですか？
() 本

- i. 故障したハンドピースの修理費は1本あたりおよそいくらですか？
() 円

- j. ハンドピースの故障の原因は何と考えられますか？（複数回答可）
- ☐ 滅菌
- ☐ 注油の不備
- ☐ 注油以外の誤った操作
- ☐ 落下等の不注意
- ☐ その他（具体例： ）

3. マイクロエンジン（コントラ）ハンドピースについて

- a. 病院全体で保有している数はいくらですか？
() 本

4

- b. 患者毎に交換していますか？
- ☐ 必ず交換している
- ☐ ときどき交換している
- ☐ 感染症患者のときだけ交換している
- ☐ 交換していない
- ☐ その他 → 現状について簡単にご説明下さい。

- c. 使用後の処理はどのようにしていますか？

- ☐ すべて必ず滅菌
- ☐ 感染症患者のときのみ滅菌（滅菌しないものは消毒）
- ☐ 感染症患者のときのみ滅菌（滅菌しないものは洗浄）
- ☐ 一部のみ滅菌（滅菌しないものは消毒）
- ☐ 一部のみ滅菌（滅菌しないものは洗浄）
- ☐ 滅菌していない（すべて消毒）
- ☐ 滅菌していない（すべて洗浄）
- ☐ その他 → 現状について簡単にご説明下さい。

- d. 滅菌あるいは消毒の方法および使用機材について簡単にお知らせ下さい。

5

- e. 診療を行う上で、現在保有している数は十分ですか？
- ☐ 十分
- ☐ 不十分 → 十分と考えられる数を100%とした場合、現在の保有数はどのくらいですか？
() %

- f. 限られた数のハンドピースを効率的に使用するために、何か特別な工夫や対応を行っていますか？
- ☐ 行っている → 差し支えなければ、簡単にご説明下さい。
- ☐ 現在検討中 → 差し支えなければ、簡単にご説明下さい。

☐ 行っていない

- g. ハンドピース1本あたりの購入価格はいくらですか？
() 円

- h. 故障するハンドピースの数は1年間でどのくらいですか？
() 本

- i. 故障したハンドピースの修理費は1本あたりおよそいくらですか？
() 円

- k. ハンドピースの故障の原因は何と考えられますか？（複数回答可）
- ☐ 滅菌
- ☐ 注油の不備
- ☐ 注油以外の誤った操作
- ☐ 落下等の不注意
- ☐ その他（具体例： ）

6

4. 超音波スケーラーハンドピースについて

- a. 病院全体で保有している数はいくらですか？
() 本

- b. 患者毎に交換していますか？
- ☐ 必ず交換している
- ☐ ときどき交換している
- ☐ 感染症患者のときだけ交換している
- ☐ 交換していない
- ☐ その他 → 現状について簡単にご説明下さい。

- c. 使用後の処理はどのようにしていますか？

- ☐ すべて必ず滅菌
- ☐ 感染症患者のときのみ滅菌（滅菌しないものは消毒）
- ☐ 感染症患者のときのみ滅菌（滅菌しないものは洗浄）
- ☐ 一部のみ滅菌（滅菌しないものは消毒）
- ☐ 一部のみ滅菌（滅菌しないものは洗浄）
- ☐ 滅菌していない（すべて消毒）
- ☐ 滅菌していない（すべて洗浄）
- ☐ その他 → 現状について簡単にご説明下さい。

- d. 滅菌あるいは消毒の方法および使用機材について簡単にお知らせ下さい。

7

の観点から福岡歯科大学に、また、被災地での誤嚥性肺炎の観点から日本歯科大学新潟生命歯学部それぞれ講師をお願いすることが提案され、了承された。

2. 第3回理事会(H26.11.4)において、小林専務理事から、10月29日(水)に丸の内のコンファレンススクエア エムプラスで第4回歯科プレスセミナーを開催したこと、「誤嚥性肺炎」をメインテーマに、日本歯科大学新潟生命歯学部の田中彰先生に「いのちを守る口腔ケアー急性期病院、大規模災害被災地における肺炎予防のための口腔ケアの取り組みー」の演題で、福岡歯科大学の内藤徹先生に「肺炎は死因の第3位ー高齢者に多い誤嚥性肺炎と口腔ケアによる予防ー」の演題で御講演をいただいたこと、当日記者は25社33名参加し、協会からは、会長、理事、実施委員合わせて15名が参加し、盛況であったこと等の報告があった。また、日本歯科大学新潟生命歯学部、福岡歯科大学への謝辞が述べられた。
3. 第4回理事会(H27.1.13)において、小林専務理事から、第4回歯科プレスセミナーについて、当日の参加者アンケートの集計結果について説明があり、好評であったこと等が報告された。続いて、第5回歯科プレスセミナーのテーマについて審議され、次回の理事会までに各大学から事務局にテーマ及び講師を提案することとなった。なお、講師は、これまで担当していない大学をお願いすることとなった。(別記7)
4. 第5回理事会(H27.2.16)において、小林専務理事から、前回理事会後に各大学から提出された意見を資料にまとめたが、このほかにも神奈川歯科大学から提案があるとの説明があり、少し日にちをおいて、提案があればメールで相談することとなった。
5. 第6回理事会(H27.3.16)において、小林専務理事から、第5回歯科プレスセミナーのテーマについていろいろな角度から検討し、「スポーツ歯学」(明海大学担当)、「歯の欠損と認知症」(神奈川歯科大学担当)の二つとしたいとの提案があり、了承された。



一般社団法人 日本私立歯科大学協会
歯科医学・歯科医療から国民生活を考える
第4回歯科プレスセミナー

～肺炎は死因の第3位～高齢者に多い誤嚥性肺炎と口腔ケアによる予防～
～いのちを守る口腔ケア～急性期病院、大規模災害被災地における肺炎予防のための口腔ケアの取り組み～

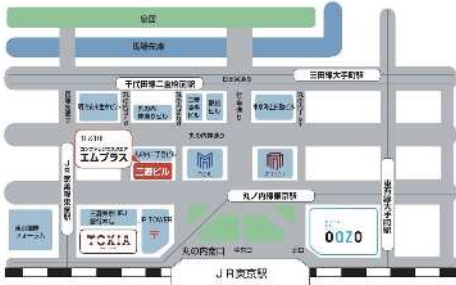
【作業報告書】

2014年12月

dentsu
株式会社 電通パブリックリレーションズ

開催概要

- 名称 ～歯科医学・歯科医療から国民生活を考える～
第4回歯科プレスセミナー
- 肺炎は死因の第3位
～高齢者に多い誤嚥性肺炎と口腔ケアによる予防～
いのちを守る口腔ケア
～急性期病院、大規模災害被災地における肺炎予防のための口腔ケアの取り組み～
- 主催 一般社団法人 日本私立歯科大学協会
- 開催日 2014年10月29日(水)
- 開催時間 受付:13:30～ セミナー:14:00～15:35(終了予定)
- 会場 コンファレンススクエア エムプラス 1階「サクセス」



- 来場メディア 33名
中央紙・通信社(医療・生活系)、歯科業界紙、健康誌、
医学ジャーナリストおよび会員大学エリアをカバーするブロック紙・地方紙など
- 出演者: 福岡歯科大学 口腔歯学部 教授
内藤 徹(ないとう とおる) 様
日本歯科大学 新潟生命歯学部 教授
田中 彰(たなか あきら) 様
【挨拶】一般社団法人 日本私立歯科大学協会 川添 堯彬 会長
【司会】一般社団法人 日本私立歯科大学協会 小林 馨 専務理事

実施スケジュール【当日進行表】

TIME	LAP	TITLE	登壇者	内容
13:30	'30	受付		■メディア受付～客席誘導
14:00	'10	主催者挨拶 協会概要紹介 講師紹介	一般社団法人 日本私立歯科大学協会 小林 馨 専務理事	■協会代表挨拶
14:10	'35	講演①	福岡歯科大学 口腔歯学部 内藤 徹 教授	■講師ご講演 肺炎は死因の第3位 ～高齢者に多い誤嚥性肺炎と 口腔ケアによる予防～
14:45	'35	講演②	日本歯科大学 新潟生命歯学部 田中 彰 教授	■講師ご講演 いのちを守る口腔ケア ～急性期病院、大規模災害被災地における 肺炎予防のための口腔ケアの取り組み～
15:20	'10	質疑応答	進行: 小林 馨 専務理事 回答: 福岡歯科大学 内藤 徹 教授 日本歯科大学 田中 彰 教授	■質疑応答
15:30	'05	閉会挨拶	一般社団法人 日本私立歯科大学協会 川添 堯彬 会長	■15:35終了

当日出席者リスト

出席者合計:33名

	社名	媒体名/所属	氏名
●全国紙			
1	日本経済新聞社	編集局 生活情報部 記者	吉野 真由美
●通信社			
2	共同通信社	編集委員 論説委員	栗山 孝夫
3	共同通信社	医療情報センター センター長	根本 義徳
●女性誌			
4	株式会社潮出版社	ハンパキン編集部 副主任	遠藤 純
●業界紙・誌			
5	プレジデント社	プレジデント編集部 副編集長	本西 勝則
6	社会福祉社・精神保健福祉士		倉西 隆秀
7	株式会社研友企画出版	出版企画部 出版企画一課主任	鹿野 美穂
8	日本歯科新聞社	週刊日本歯科新聞 編集部	富田 真人
9	株式会社歯科時報新社	デンタルタイムズ21 発行	吉田 泰行
10	クインデッセンス出版株式会社	新聞クイント 編集長	木宮 雄志
11	朝日新聞社	企画事業本部 事業開発部 医学・医療セミナー事務局	中田 裕康
12	朝日新聞社	企画事業本部 事業開発部 医学・医療セミナー事務局 事務局長	樋山 結花
13	株式会社東京医歯薬出版	手技療法タイムズ 編集部	増子 佳久
14	株式会社主婦と生活社	わんさん生活 編集長	山村 誠司
15	株式会社こまど社	代表取締役	藤澤 弘和
16	株式会社こまど社	編集企画部	藤澤 亮輔
17	株式会社ヒューロン・パブリッシャーズ	月刊日本歯科評論 編集部	金井 俊太
18	日本医療企画	ヘルスケア情報事業本部 健康・栄養情報部 健康編集代表	林 民
19	日本医療企画	ヘルスケア情報事業本部 医療情報事業部 医療経営編集	植草 啓介
20	UBMメディア株式会社	食品と開発 編集部	山崎 美奈
●オンライン			
21	朝日新聞社	新事業本部 デジタル・ライツ部(dot担当)	矢下 幸司
22	株式会社石川悦郎事務所	代表取締役 社長 (dot担当ライター)	石川 悦郎
23	株式会社イード	リセラム編集部 副編集長	湯浅 大貴
24	株式会社イード	メディア営業本部 リセラム担当 アシスタントプロデューサー	横井 真里
25	株式会社イード	ライター 企画編集	中尾 真二
●フリーライター・その他			
26	株式会社日経ラジオ	営業局 クロス営業部	古川 保彦
27	医療ジャーナリスト・医療プロデューサー	社会福祉士	鈴木 紀郎
28	株式会社新聞編集センター	定年時代 編集デスク	田崎 正人
29	健康・食生活エディター&ライター		斎藤 宏子
30	食生活・健康エディター&ライター		中西 宏子
31	株式会社イナ市	代表取締役	松井 寿一
32	NPO法人日本医学ジャーナリスト協会	丸山寛之事務所	宮下 弘子
33	株式会社ソーシャライズ	ドクターズガイド	稲垣 麻里子

掲載一覧

NO	日付	媒体名	タイトル
新聞・雑誌			
1	2014/11/4	日本歯科新聞	私立歯科大学協賛セミナー 肺炎予防の役割強調
2	2014/11/5	デンタルタイムス 21	歯科大学・歯科医療から国民生活を考える 第4回歯科プレスセミナー
3	2014/11/18	山陽新聞（岡山）夕刊	口腔ケア 健康維持の鍵 入院日数や合併症減
4	2014/11/20	沖縄タイムス（那覇）	口腔ケア 健康維持の鍵 入院日数・合併症減らす
5	2014/11/25	静岡新聞（静岡）夕刊	命にかかわる口腔ケア 病気の療や災害時 重要
6	2014/11/25	琉球新報（那覇）	命にかかわる口腔ケア 全身の健康維持の鍵に
7	2014/11/27	大阪日日新聞（大阪）	命にかかわる口腔ケア 全身の健康維持の鍵に
8	2014/11/27	日本海新聞（鳥取）	命にかかわる口腔ケア 全身の健康維持の鍵に
9	2014/11/28	日本経済新聞（東京）夕刊	高齢者に多い肺炎 「感染性」歯磨きで予防
10	2014/11/28	日本経済新聞（名古屋）夕刊	高齢者に多い肺炎 「感染性」歯磨きで予防
11	2014/11/28	日本経済新聞（大阪）夕刊	高齢者に多い肺炎 「感染性」歯磨きで予防
12	2014/11/28	日本経済新聞（福岡）夕刊	高齢者に多い肺炎 「感染性」歯磨きで予防
13	2014/11/28	下野新聞（宇都宮）	命にかかわる口腔ケア 全身の健康維持の鍵に
14	2014/11/28	西国新聞（高松）	注目される口腔ケア 全身の健康維持の鍵に
15	2014/11/28	宮崎日日新聞（宮崎）	命にかかわる口腔ケア 入院日数削減にも効果
16	2014/12/2	京都新聞（京都）	命にかかわる口腔ケア 入院日数や合併症減らす
17	2014/12/7	千葉日報（千葉）	命にかかわる口腔ケア 特に病気や災害発生時
18	2014/12/10	新聞クイント	第4回歯科プレスセミナー、「感染性肺炎」をテーマに
19	12月初旬号	定年時代 東京版	歯磨き のどの詰りと感染
20	12月号予定	日本医療企画	未定
21	掲載日未定	手技療法タイムズ	未定
22	3月末予定	株式会社こまど社	未定

掲載記事

- 5 -

- 6 -

掲載一覧

NO	日付	媒体名	タイトル
Web			
1	2014/11/5	月刊日本歯科評論	日本私立歯科大学協会が第4回歯科プレスセミナーを開催
2	2014/11/6	新聞クイント	日本私立歯科大学協会、第4回歯科プレスセミナーを開催
3	2014/11/7	dot.	お口のケアが命を救う 高齢者の感染性肺炎を予防する口腔ケア
4	2014/11/7	@niftyニュース	お口のケアが命を救う 高齢者の感染性肺炎を予防する口腔ケア
5	2014/11/7	goo グルメ&料理	お口のケアが命を救う 高齢者の感染性肺炎を予防する口腔ケア
6	2014/11/7	goo ニュース	お口のケアが命を救う 高齢者の感染性肺炎を予防する口腔ケア
7	2014/11/7	livedoor ニュース	お口のケアが命を救う 高齢者の感染性肺炎を予防する口腔ケア
8	2014/11/7	mixi ニュース	お口のケアが命を救う 高齢者の感染性肺炎を予防する口腔ケア
9	2014/11/7	Yahoo!ニュース	お口のケアが命を救う 高齢者の感染性肺炎を予防する口腔ケア 〈dot〉
10	2014/11/7	エキサイトニュース	お口のケアが命を救う 高齢者の感染性肺炎を予防する口腔ケア 〈dot〉、1、2
11	2014/11/10	ReseMom	むし歯の時代は終わり、高齢化社会における歯科医の必要性と需要、1、2
12	2014/11/10	@niftyニュース	むし歯の時代は終わり、高齢化社会における歯科医の必要性と需要
13	2014/11/10	Ameba mama+	むし歯の時代は終わり、高齢化社会における歯科医の必要性と需要
14	2014/11/10	Ameba News	むし歯の時代は終わり、高齢化社会における歯科医の必要性と需要
15	2014/11/10	livedoor ニュース	むし歯の時代は終わり、高齢化社会における歯科医の必要性と需要
16	2014/11/10	Yahoo!ニュース	むし歯の時代は終わり、高齢化社会における歯科医の必要性と需要
17	2014/11/10	キッズ@nifty	むし歯の時代は終わり、高齢化社会における歯科医の必要性と需要
18	2014/11/10	学臨く.com	むし歯の時代は終わり、高齢化社会における歯科医の必要性と需要
19	2014/11/10	歯の健康と美容のニュース	むし歯の時代は終わり、高齢化社会における歯科医の必要性と需要
20	2014/11/10	就職・転職ニュース	むし歯の時代は終わり、高齢化社会における歯科医の必要性と需要
21	2014/11/10	聖隷し.com	むし歯の時代は終わり、高齢化社会における歯科医の必要性と需要
22	2014/11/10	Infoseekニュース	むし歯の時代は終わり、高齢化社会における歯科医の必要性と需要、1、2
23	2014/11/10	エキサイトニュース	むし歯の時代は終わり、高齢化社会における歯科医の必要性と需要、1、2、3
24	2014/11/10	楽天woman	むし歯の時代は終わり、高齢化社会における歯科医の必要性と需要、1、2、3、4
25	2014/11/10	歯の健康と美容のニュース	日本私立歯科大学協会、講演会を開催
26	掲載日未定	ドクターズガイド	未定

- 7 -

アンケート集計結果

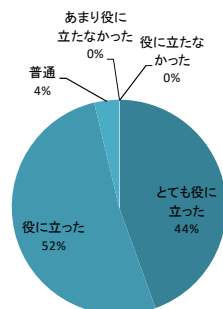
※セミナー出席者33名中27名が回答

- 8 -

1. 講演の内容

- ① とても役に立った ② 役に立った ③ 普通 ④ あまり役に立たなかった
⑤ 役に立たなかった その理由

とても役に立った	12
役に立った	14
普通	1
あまり役に立たなかった	0
役に立たなかった	0
回答数	27



◆その理由(記述有のみ記載)

➤とても役に立った

- ・口腔ケアと肺炎と言う一件関連がなさそうな医療が結びついた。
- ・歯科医療が国民生活に最も身近な医療。
- ・全体的に口腔ケアの現状と大切さが伝わり、勉強になりました。
- ・改めて再認識した。分かりやすい講演。

➤役に立った

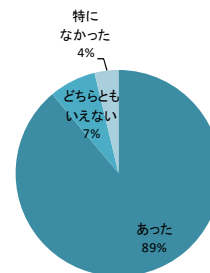
- ・口腔ケアの重要性をもっと国民全般にわからせることが大切。
- ・口腔ケア→歯周病予防のイメージが強かったが参考になった。
- ・高齢者の多来受診者が多いということが興味深かった。
- ・口腔ケアの効果
- ・誤嚥性肺炎と口腔ケアについてよくわかった。

- 9 -

2. 今回のセミナーテーマについて新しい情報、興味深い情報がありましたか？

- ① あった ② どちらともいえない ③ 特になかった

あった	24
どちらともいえない	2
特になかった	1
回答数	27



◆内容(記述有のみ記載)

- 急性期医療現場での口腔ケアの必要性
- 術後の合併症激減。
- 口腔ケアによる肺炎などの予防効果について。
- 口腔ケアは、大規模な震災時は、肺炎対策・感染症対策の1つとして位置づけがなされている。"肺炎予防に歯ブラシが必要"と内科の医師が言っている。
- すべての内容について興味深かったです。高齢者に多い誤嚥性肺炎の現状・予防も。
- 高齢者で誤嚥性肺炎が再発しやすく、耐性菌がでることが死亡につながりやすいという流れが新発見だった。
- 災害時の対策が興味深かった。
- 口腔ケアによって肺炎が減るだけでなく、在院日数の削減効果がある。
- 口腔ケアが国家試験の内容になってきているという点。
- 高齢者の口腔ケア

- 10 -

3. 今回のセミナーの内容で、最も関心を持たれたことは何ですか？

関心を持たれたこと	その理由、またはご意見ご感想
口腔ケアの重要性を認識した	—
歯科と医療が連携されていたこと	—
中医協へ提出された資料	—
高齢者医療の中の口腔ケアの重要性	口腔ケアが発達することで、総医療費削減が見込めることができるため非常に興味深いデータだと思います
肺炎予防に限らず様々な術後管理において口腔ケアが重要である点	—
口腔ケアの有効性をデータで示せたのは良かったと思います	—
田中彰先生の「口をきれいにしないと手術しない話」	—
内藤徹先生の「口腔ケアで高齢者の肺炎を減らすことが出来る話」『日本のレポート』	—
すべて	食べることは生きること。まず口の中の歯の口腔内の大切さの重要性
口の中はかたんに汚れてしまうということ	口腔ケアは大切だと思った
肺炎との関連	—
手術前の口腔ケア	現在内科、外科の手術前に口腔ケアを重要と考えて実行している先生は？
入院患者の入れ歯に病院スタッフが気づかず、ケアされていないこと	—
歯科医に求められる専門性の多様化について	—
具体的なデータと口腔ケア効果	—
誤嚥性肺炎と口腔ケアについてよくわかった	できれば口腔ケアの具体的な方法についてもっと情報が欲しい
被災地における口腔ケアの必要性	—
老人施設内での口腔ケア	口腔ケアが入院日数などを大幅に向上させるということについて
口腔ケアと在宅医療の必要性について	—
地域包括ケアにおける歯科の役割	—
口腔ケア	—

- 11 -

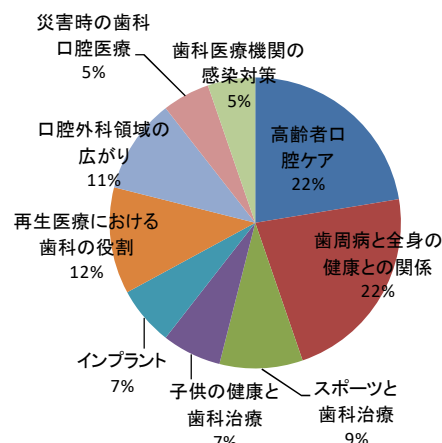
4. 歯科医学、歯科治療について、現在最も関心のあることは何ですか？

(複数回答)

高齢者口腔ケア	17
歯周病と全身の健康との関係	17
スポーツと歯科治療	7
子供の健康と歯科治療	5
インプラント	5
予防歯科によるアンチエイジング	9
再生医療における歯科の役割	8
口腔外科領域の広がり	4
災害時の歯科・口腔医療	4
その他	0
合計	76

◆その他(記述有のみ記載)

- 摂食嚥下障害
- 全身医療との連携

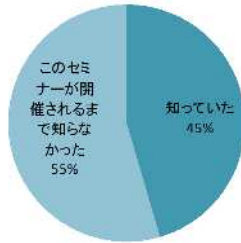


- 12 -

5. 社団法人 日本私立歯科大学協会をご存知でしたか？

- ① 知っていた ② このセミナーが開催されるまで知らなかった

知っていた	10
知らなかった	12
回答数	22
未回答	5



6. 今後の歯科プレスセミナーで取り上げてほしいテーマ、講師などありましたら教えてください。

- 嚥下機能回復の具体的な方法
- 自分でできる口腔ケアと歯科医師による口腔ケア
- 口腔ケアのすべてが知りたいです。歯科治療のすべて（金額なども）
- 高齢者口腔ケア、嚥下病と全身の健康との関係
- 摂食嚥下障害
- 歯科治療の進歩（虫歯、歯槽膿漏等一般的なもの）
- 口腔ケアの具体的な方法、宝田恭子先生
- スポーツと口腔外科の関係性
- インプラント、再生医療、オーラルケア
- 訪問歯科について

7. 自由意見

- アンケートのデータ配布

（7）私立歯科大学（学部）の財政等の現状について（平成 25 年版）

平成 25 年度第 1 回経営部会（H25. 6. 17）において協議し合意された項目により、加盟大学から資料の提供を受け、平成 25 年版を作成し、平成 26 年度第 1 回経営部会（H26. 6. 19）の審議を経て、加盟大学へ一部ずつ送付した。

（8）広報の発行（第 68 号・第 69 号）について

協会の広報は、年 2 回発行（原則 9 月と 3 月の予定）し、記載事項は、

- ① 巻頭言
- ② 「加盟大学のニュース」として、加盟大学発行の広報誌から、行事、歯学部長・病院長以上の異動・叙勲・訃報、特色ある施設等の紹介
- ③ 「新聞記事の要点」（「教育関係」及び「歯科関係」記事のうち重要なもの）として、記事の見出し・年月日・掲載紙名の一覧
- ④ 協会主催会議・事業の概要
- ⑤ 協会作成資料
- ⑥ 人事異動消息
- ⑦ その他協会広報にふさわしいもの

とし、内容の充実に努める。

以上の編集方針について、広報委員会（H26. 7. 31 および H27. 2. 4 開催）で審議・了承され、第 68 号は平成 26 年 9 月 30 日に、第 69 号は平成 27 年 3 月 31 日に発行した。（別記 8）



日本私立歯科大学協会広報

第 68 号
平成 26 年 9 月

目 次

<巻頭言>

目の前のこと・先行きのこと 大野 敬…………… 2

<大学のニュース>

○北海道医療大学歯学部

- ・サハリン・ロシア極東地域 ビジネス交流モニター
ツアーによる本学視察実施…………… 6
- ・中国・同済大学で「海外短期臨床実習」実施…………… 6
- ・大学院歯学研究科学生が台北医学大学（台湾）
における研究発表にて表彰される…………… 7

○岩手医科大学歯学部

- ・ハーバード大学歯学部学生の Externship が
本学で行われました…………… 8
- ・総合移転整備計画に係る新病院エネルギー
センターの建設について…………… 8
- ・（公財）大学基準協会から「大学基準に適合して
いる大学」として認定されました…………… 9
- ・3学部合同学生セミナーが行われました…………… 9

○奥羽大学歯学部

- ・若手研究奨励賞を新たに創設…………… 10
- ・臨床実習学外研修…………… 10
- ・「キャンパスの石と彫刻」写真展…………… 10
- ・東健一郎君 日本解剖学会優秀発表賞受賞…………… 10

○明海大学歯学部

- ・宮田 淳氏 理事長に就任…………… 11
- ・明海大学歯科総合医育成コース認定医制度開設
発表会を開催…………… 12

○東京歯科大学

- ・アメリカ・タフツ大学（Tufts University）と
姉妹校協定締結…………… 13
- ・白石 建教授 ホーチミン市の名誉市民に
認定される…………… 13
- ・水野嘉夫理事が第 8 代理事長に就任…………… 13
- ・法人役員の選任…………… 14

○昭和大学歯学部

- ・平成 25 年度 武重優秀クラブ賞 優秀クラブ賞
表彰式—武重優秀クラブ賞はバスケットボール部
が受賞…………… 14
- ・昭和大学江東豊洲病院オープン 3 月 24 日—
3 月 22 日に竣工式・施設披露と開院記念会— …… 15
- ・平成 25 年度 卒業式—医学部：第 63 回
歯学部：第 32 回 薬学部：第 46 回
保健医療学部：第 9 回—…………… 16
- ・歯学部スキー部…………… 17

○日本大学歯学部

- ・平成 25 年度第 2 回歯学部公開講座 口腔保健と
全身の健康シリーズ（35）…………… 17
- ・歯学部新校舎の建設計画についてⅡ…………… 17
- ・ラオスでの国際シンポジウムを終えて…………… 18

○日本大学松戸歯学部

- ・平成 26 年度 オープンキャンパス…………… 18

○日本歯科大学生命歯学部

- ・佐藤田鶴子名誉教授 歯科医学会会長賞…………… 19
- ・荏部教授の研究 ガーディアン紹介…………… 19
- ・日本歯科大学附属病院 ちいさな歯医者さん
—赤坂 TBS でママサカス 2014 開催— …… 19

○日本歯科大学新潟生命歯学部

- ・新潟・21 年ぶりの歯学体…………… 20
- ・〈第 1 回〉中山医学大学と交換学生…………… 20

○神奈川歯科大学

- ・John Killip 先生特別講演—NDOA-KDU 継続教育
プログラム—…………… 20
- ・就任挨拶…………… 21
- ・平成 25 年度「神奈川歯科大学歯科身元確認研修会」
開催される…………… 22

- ・第 2 回神奈川歯科大学大学院 第 2 回災害医療
歯科学研究報告会を開催…………… 22

○鶴見大学歯学部

- ・解剖献体合同葬儀を厳修…………… 23
- ・鶴見大学学生ボランティアチーム「学生ボランティ
ア団体支援」助成金に採択される…………… 23
- ・学校法人 総持学園 事務組織一部変更について
…………… 24
- ・歯学部第 41 回生登院式…………… 24

○松本歯科大学

- ・松本歯科大学市民公開講座を開催—口の健康の大
切さを市民に呼びかけ地域を志向し健康増進に
貢献…………… 24
- ・本学病院に小児科開設—塩原正明教授が診療を
担当 小児の健康増進の一翼担う—…………… 26
- ・第 4 学年春日さんが外頸動脈について発表—
日本解剖学会総会・全国学術大会—…………… 26

○朝日大学歯学部

- ・宮田 淳氏 理事長に就任…………… 27
- ・日本小児歯科学会を開催…………… 28
- ・保健医療学部看護学科を開設…………… 28
- ・歯学部の実習室リニューアル！…………… 29

○愛知学院大学歯学部

- ・名誉教授称号授与…………… 29
- ・福井 壽男 特殊基礎研究教授 日本歯科理工学
会賞を受賞…………… 30
- ・大学院歯学研究科 河村 純君 日本歯科理工
学会 論文賞受賞…………… 30
- ・韓国延世大学と本学が学術交流協定を締結…………… 30

○大阪歯科大学

- ・平成 25 年度 学生短期海外研修派遣…………… 31
- ・第 21 回 公開講座（枚方講座）開催…………… 32
- ・第 11 回 大阪歯科大学附属病院 病診連携講演会・
懇談会…………… 32
- ・第 15 回 学園都市ひらかた推進協議会…………… 32

○福岡歯科大学

- ・田中健蔵理事長、第 23 回日本歯科医学会学術大会
（総会）会頭の委嘱を受ける…………… 33
- ・関口教授らの研究プロジェクトが私立大学戦略的
研究基盤形成支援事業に採択…………… 33
- ・福岡歯科大学教育支援・教学 IR 室設置…………… 34
- ・第 1 回 地域連携推進協議会を開催…………… 34

<事業概要>

- 平成 25 年度協会決算…………… 35
- 平成 26 年度協会事業計画…………… 35
- 平成 26 年度協会収支予算…………… 38
- 総会…………… 39
- 理事会…………… 41
- 部会・委員会…………… 44
- 事務局長会議…………… 45

<日本私立歯科大学協会関係の諸会議>

- 第 21 回日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科
衛生士協議会…………… 46
- 平成 25 年度全国私立歯科大学・歯学部附属病院診療
放射線技師代表者会（第 12 回定例会議）…………… 46

<新聞記事の要点>

- 1. 教育関係…………… 47
- 2. 歯科関係…………… 52

<叙勲>

- …………… 54

<訃報>

- …………… 54

<人事異動消息>

- …………… 55

<協会役員・部会・委員会名簿>

- …………… 67

<一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿>

- …………… 70

<編集後記>

- …………… 70



日本私立歯科大学協会広報

第 69 号
平成 27 年 3 月

目次

<巻頭言>

建学の精神に立脚した国際化の推進 大友克之…… 2

<大学のニュース>

○北海道医療大学歯学部

- ・中山大學（中国広東省）と本学歯学部が学術交流協定を締結…………… 5
- ・台北医学大学（台湾）との短期留学プログラム報告会開催…………… 5
- ・サハリン州副首相・保健省大臣らが来学…………… 5
- ・同窓会設立 30 周年記念式典及び記念祝賀会開催 …… 6

○岩手医科大学歯学部

- ・オープンキャンパス 2014 が行われました …… 6
- ・創立 120 周年記念ロゴマーク・スローガンが決定しました…………… 7
- ・医大祭 2014「三輝～Sun Shine～」が行われました…………… 7
- ・エネルギーセンター起工式が行われました…………… 7

○奥羽大学歯学部

- ・奥羽大学若手奨励研究の採択…………… 8
- ・基礎棟 1 階実習室 TV モニターシステム更新 …… 8
- ・平成 26 年度臨床教育力養成研修会 …… 8
- ・高齢者・要介護者施設の実務研修…………… 8

○明海大学歯学部

- ・14 年度歯学部海外研修 世界各国の 7 大学で研修…………… 9
- ・歯学部相互交流プログラム 各国協定校から研修生が来学…………… 9
- ・2014 年度歯学部公開講座「食事」と「口腔」の関係に強い関心集まる…………… 10

○東京歯科大学

- ・東京歯科大学大学葬 石川達也 元学長 ご逝去… 10
- ・平成 26 年度 Elective Study 報告 …… 11
- ・井上 孝教授 FDI 理事に選任される …… 13
- ・水道橋校舎本館西棟建設工事について…………… 13

○昭和大学歯学部

- ・上條奨学賞 決まる 各学部から 9 名が受賞…………… 14
- ・富士吉田寮祭を終えて…………… 15
- ・第 7 回旗の台キャンパスホームカミングデー…………… 16

○日本大学歯学部

- ・平成 26 年度第 1 回歯学部公開講座 口腔保健と全身の健康シリーズ (36) …… 16
- ・戦略的研究基盤形成事業研究成果報告会…………… 17

○日本大学松戸歯学部

- ・第 41 回 松戸まつり …… 17

○日本歯科大学生命歯学部

- ・歯髄幹細胞で肝臓を再生した—世界初の前臨床実験に成功 八重垣教授と石川客員教授が記者会見—…………… 17
- ・長寿の鍵は「口」にあり—口腔ケア最前線—…………… 18
- ・エッ！ まさかの日歯大キティ…………… 18
- ・附属病院消防隊 東京消防庁表彰…………… 18

○日本歯科大学新潟生命歯学部

- ・水谷准教授（新潟病院）教育文化賞受賞…………… 19
- ・第 27 回姉妹校交換学生—派遣と受け入れ総計 380 人—…………… 19
- ・ISO ベルリン会議 小倉名誉教授の逝去を悼む… 19
- ・いのちを守る口腔ケア—新潟／福祉・介護・健康フェア 本学学生らが発表—…………… 19

○神奈川歯科大学

- ・ジャカランダフェスティバル開催！…………… 20
- ・神奈川歯科大学学修管理システム（KDU-LMS） 21
- ・神奈川歯科大学第 45 回諸霊供養の会 …… 21
- ・NPO 活動法人 神奈川歯科大学南東アジア支援団（KDC-SAS）～ 10 周年を迎えて～
NPO 代表理事 平田宗善 …… 22

○鶴見大学歯学部

- ・歯塚供養…………… 23
- ・本学が「国連アカデミック・インパクト」に参加—国連が本学の人道支援活動を評価—…………… 24
- ・山根 明教授ご逝去…………… 25
- ・2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会大学連携協定締結…………… 26

○松本歯科大学

- ・第 10 代学長に川原一祐先生が就任 …… 26
- ・松本市議団が本学を研修視察—歯科保健衛生対策の理解深める—…………… 26
- ・大学・地域連携事業 市民シンポジウムを開催—塩尻市と包括連携協定を締結—…………… 27

○朝日大学歯学部

- ・歯学部海外 4 カ国・7 大学で研修…………… 28
- ・入院患者さんに癒しの音色…………… 29
- ・国内外でブラッシング指導…………… 29

○愛知学院大学歯学部

- ・本学歯学部の研究グループが、歯周炎が動脈硬化を誘引する仕組みの一部を解明…………… 29
- ・本学歯学部モンゴル診療隊にモンゴル国ダルハン県より友好勲章…………… 30
- ・小出学院長にモンゴル国立医療科学大学より感謝状贈呈…………… 30
- ・歯学部 後藤滋巳教授が日本矯正歯科学会賞を受賞…………… 30
- ・本学の職務発明 2 件 特許権を取得…………… 31

○大阪歯科大学

- ・大学院早期修了者の学位認証式開催…………… 31
- ・第 27 回日本顎関節学会学術大会ポスター発表優秀賞受賞…………… 31
- ・スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRIP）日本代表選抜大会で本学代表学生が第 2 位を獲得しました…………… 31
- ・国際交流…………… 32

○福岡歯科大学

- ・第 23 回日本歯科医学会総会 第 1 回常任委員会開催…………… 33
- ・地域連携センター 早良区地域保健福祉課と健康診断実施…………… 33
- ・平成 26 年度再生医学研究センターシンポジウム …… 34

<事業概要>

- 総会…………… 35
- 理事会…………… 37
- 部会・委員会…………… 42
- 事務局長会議…………… 42
- 研修会…………… 43

<日本私立歯科大学協会関係の諸会議>

- 第 40 回全国私立歯科大学・歯学部附属病院看護部長会…………… 45
- 第 35 回全国私立歯科大学附属病院薬剤部長会 …… 45
- 第 19 回日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科技工士協議会…………… 45

<新聞記事の要点>

- 1. 教育関係 …… 47
- 2. 歯科関係 …… 51

<叙勲>

<訃報>

<人事異動消息>

＜第 46 回全日本歯科学生総合体育大会の成績表＞ …… 59

＜協会役員・部会・委員会名簿＞ …… 62

＜（社）日本私立歯科大学協会加盟名簿＞ …… 66

＜編集後記＞…………… 66

(9) 受験生確保対策事業について

第1回受験生確保対策委員会（H26.7.25）において、協議の結果、平成26年度受験生確保対策事業は継続事業を中心に実施することとした。

平成26年度に実施した事業の概要は、下記のとおり。

1. ポスター（「新しい歯科医師の時代がやってくる！」）、『私立大学17歯学部平成27年度入試のお知らせ』および『私立大学17歯学部問い合わせ先&アクセス一覧』（次項参照）を主要な全国の高等学校（校長及び進路指導部主事宛）に送付した。（平成26年10月）
2. 「医歯薬進学4月号（平成27年3月）」に、『私立大学17歯学部問い合わせ先&アクセス一覧』を掲載するとともに、『新しい歯科医師の時代がやってくる！—これから歯科医師をめざすみなさんへ—』を掲載した。
3. インターネット・ホームページによるPR
 - (1) ホームページ掲出内容
 - ① 全入試日程（加盟大学17歯学部の平成27年度入試日程一覧）
 - ② 加盟大学入試要項（加盟大学17歯学部の平成27年度入試要項）
 - ③ 入試結果報告（加盟大学17歯学部の平成26年度入試結果）
 - ④ 歯学部を目指す皆さんに(Q&A) (私立歯科大学の特長等についての一問一答)
 - ⑤ 協会の概要
 - (2) ホームページアドレス (URL)
<http://www.shikadaikyo.or.jp/>
<http://www.shikadaigakujukenjouhou.jp/>
4. 「全国医歯薬科大学受験相談会」の後援を行った。
5. 受験生確保対策事業費について
 - (1) 平成26年度予算額： 4,000,000円
 - (2) 平成26年度決算額： 2,228,744円
6. 平成22年度に新規事業として作成した小冊子『新しい歯科医師の時代がやってくる！』を、受験生等が直接閲覧できるよう、23年度以降、大学及び協会のホームページ上にアップしている。

(10) 研修事業について

平成 26 年度に実施された研修事業は次のとおりであった。

○「第 36 回附属病院管理運営事務研修会」

- ・開催日 平成 26 年 10 月 23 日(木)・24 日(金)
- ・世話大学 神奈川歯科大学

○「第 10 回教務研修会」

- ・開催日 平成 26 年 12 月 1 日(月)・2 日(火)
- ・場所 K K R ホテル東京

(11) 総会、部会の開催日について

1. 第 2 回理事会(H26. 6. 23)において、小林専務理事から、総会及び部会の開催日についてご意見を聞くため、アンケート調査を実施したいとの提議があり、了承された。

2. 第 3 回理事会(H26. 11. 4)において、小林専務理事から、総会及び部会の開催日についてのアンケート調査結果の報告があり、それを踏まえ、総会と部会は同日開催とし、各部会が抱える案件を考慮し、審議に十分な時間が必要と部会長が判断するときは別の日に開催することとしてはどうか、また、部会の開催時間は 10 時から 12 時の範囲で行うこととしてはどうかとの提案があり、これに対して、部会の開催時間について 10 時からでは前日に来なければならないとの意見があり、部会は 10 時半から行うこととすることです承された。

(12) 私学関係諸団体との提携・協力及び援助について

知識と技術の向上を図り、歯科医療の発展に寄与することを目的として活動を行っている下記の 5 つの団体に対して、その活動を後援するため助成金を交付した。

- 全国私立歯科大学・歯学部附属病院看護部長会
- 全国私立歯科大学附属病院薬剤部長会
- 日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科技工士協議会
- 日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科衛生士協議会
- 全国私立歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師代表者会